

事業名 環境保全・活用ルール策定事業

実施主体 隠岐自然倶楽部

県担当課 自然環境課

事業の成果

事業の目的 [環境保全]

- エコツーリズムを行うにあたり、まず共通認識を持つことに重点をおき、ルールづくり(マナー)に活かすことにした。

事業の内容

- 住民意識調査を実施し、現状把握を行った。
- 現地踏査を実施し、現地の現況や保全の取り組み、観光への利用状況等を確認した。
- 隠岐の自然環境・歴史文化を保全し、永続的に受け継いでいくこと、エコツーリズムとしての活用が可能になることを目的として、隠岐の実情に即したルールブックを策定した。



目的の達成状況 [概ね達成できた]

- まだ、一般的には、国立公園、レッドデータ種など、ほとんど理解されていないのが現状であるが、隠岐の概略が分かったとの声が多く、それなりの成果があったと思われる。

反省点・改善点

- 今回作成されたルール(データ)ブックの文字が小さい、画像が多く欲しいなどの意見が多く、改善すべきことと思う。

協働の効果

県との協働内容 [協働して実施した]

- ルールブックの内容について貴重な助言をいただいた。
(ルール作りなどは、難しい部分も多く、なかなか進まないときに、難しい現状をありのまま載せることなど指導等があり助かった。)

県との協働効果 [十分効果があった]

- 他県の方から、県もいっしょに行う事業としての評価、意見等もいただいた。

県への要望事項 [特にない]

反省点・改善点

- 初めから相談すべきであった。

市町村との協働 [協働して実施した]

- 最終的まとめ、監修。

事業の継続

事業成果の活用 [活用されている]

- 色々な観察会で配布し、理解をいただいている。

事業の継続状況 [助成を受けずに継続実施している]

- 内容のデータ収集、ルール(マナー)を守ったエコツアーガイド実習。

協働による発展 [協働により発展できる]

- 内容の充実、ルール(マナー)づくりを完成へ近づける。
- 町の環境条例への発展をめざす。

